

# 論壇

惠泉女学園  
大学学長

木村 利人



困難に直面している  
時こそ

東日本大震災の直後から、「日本のために祈ろう」(Pray for Japan)という大きなキャンペーンが、インターネット上で続けられてきている。世界各地から6000万人以上の人々が、日本の被災者と全ての日本人のために祈

り、応援する支えの言葉を書き連ねている。まるで祈りの津波現象が起こったかのようである。これは、従来考えられなかったサイバースペース内のネットワークによる祈りの支援活動である。

わたしのEメールにも世界各地の友人たちからの安否の問い合わせのあと、必ず「わたしたちに何ができるのだろうか」と被災者を支援するための二ードについての問い合わせが続いている。あなたに任せるから被災者のためにといて、早々に小切手を送ってきてくれる人までいた。

世界各地の教会では、地震が起きて3日目に行われた3月13日の聖日礼拝で、いち早く日本の大地震と津波による被災者救援のための献金をはじめた。タイ、メキシコ、イス、アメリカなどその迅速で具体的な世界各地の友人、

はプレゼントはいらないから、その分を日本の被災地に献金しようといって、義援金を送ってくれた。パージニア州アーリントンでは、公立学校に通う子どもたちが自発的に提案して、街角で自分

たちが作ったレモネードを紙コップに入れて、通りかかる人に売る募金活動を始めた。自分たちでできることを見つけて、すぐに実行してくれている子どもたちの思いがうれ

しい。

「現代の科学と技術の根源的な問いは、もはや私たちが

ハイテックの  
予言

現在、大地震、津波の被害に加えて、わたしたちは福島原発の事故に直面し、未来が

十分な量の燃料を何処から得るのかといったことではない。決定的な問いは、想像もできないほど大きな原子エネルギーを一体どのようにして制御し、操作するのか、そしてこの途方もないエネルギーが突然一戦争にもよらずに何処かでブレイクし、いわば『脱走』し、あらゆるものを壊滅しつづけてしまうという危険に対し、人類を安全に守ることが出来るのかどうか、という問いなのである」

まさに、現在の日本の状況をそのまま描写している言葉である。50年以上も前にそれを予言している先達の言葉に驚かされる。

## 祈りと救援の「津波」

驚かされる。  
この、檻から脱走した怪物が人々を襲い、農地を荒らし、海や空気を汚染し、人々を恐怖のどん底に落とし切っている現実、わたしたちはどう対処するべきなのだろうか。この怪物を手なずけて飼いなすのか、あるいは思い切って葬り去るのか。厳しい決断をせまわれている。

日本に「祈りと救援の津波」を到来させてくれた世界の友人たちに深く感謝しつつ、共に祈りを合わせ、Pray for Japan.の時を持ち続けたいと思う。

(きむら・りひと)